

## 7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域 振興局	タイトル	団体名	掲載 ページ
佐久	創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート1 (音楽で創る佐久のハーモニー)	創ろう！広げよう！佐久のハーモ ニー！実行委員会（佐久市）	113
上田	とうみ子どもがまんなかプロジェクト	楽育ひろばtomi（東御市）	114
諏訪	諏訪湖を活かしたまちづくり「諏訪湖に学 ぶ」	諏訪湖クラブ（諏訪市）	115
上伊那	1人ひとりの命を大切に。 大自然の中で生かされ、繋がりを感じる子育 ち環境をつくる。	認定特定非営利活動法人 フリーキッズ・ヴィレッジ （伊那市）	116
南信州	市田柿づくりの伝承と認知度アップ推進事業	市田柿づくりをやらまい会 （飯田市）	117
木曽	あやめ公園池憩いの場創生事業	あやめ公園池保全管理組合 （木祖村）	118
松本	信州ギター祭り（信州産ギターのPRの推 進）	信州ギター祭り実行委員会 （松本市）	119
北アルプス	小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化 推進事業	伊折農業生産組合（小谷村）	121
長野	生鮮冷蔵冷凍コンテナを活用したフードロス 削減と助け合いの心をUP	信州こども食堂印SDGsプロ ジェクト（長野市）	122
北信	信州中野きのこ生産の歴史と未来	一般社団法人日本きのこマイス ター協会（中野市）	124

**創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート1**  
**（音楽で創る佐久のハーモニー）**  
**（創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会）**

**団体紹介（私たちが目指しているもの）**

音楽と演劇による文化芸術の力を生かした地域づくりに取り組み、文化芸術に対する理解を深め裾野を広げていくことにより地域の活性化に寄与していく。

**地域発 元気づくり支援金の活用状況**

活用年度	事業概要	支援金額
R1	①小学校でのリトミック、②学校での楽器別のクリニック、③小学校での楽器に触れるワークショップ、④特養施設等での訪問演奏	1,741 千円
R2	①小学校でのリトミック、②学校での楽器別のクリニック、③小学校での楽器に触れるワークショップ	443 千円
R3	①小学校でのリトミック、②学校での楽器別のクリニック、③小学校での楽器に触れるワークショップ、④文化施設での演奏会、⑤マルシェ演奏会	1,414 千円

**最近の活動内容と今後の事業展開**

- 1 プロのオーケストラと成人合唱団及び少年少女合唱団、高校吹奏楽部（班）との合同の演奏会を年1回実施しています。（演奏会名：佐久のハーモニーコンサート）
- 2 実行委員会の構成団体のうち、2者が連携して、ワークショップを拡大した「楽器に触れてみよう」として、①「ピアノを弾いてみよう」②「コントラバスを弾いてみよう」を今年度に、令和7年度にはそれに加えて③「ドラムを叩いてみよう」④「ヴァイオリンを弾いてみよう」を実施する予定です。
- 3 文化財を活用した演奏会として廃校になった旧大沢小学校で2回の演奏会を実施しました。今後も続けていきます。



【旧大沢小学校での演奏会】

**取組の効果**

リトミック、クリニック、ワークショップなどを通して小・中学生が音楽を身近なものとして捉えるようになり、音楽教育の促進に寄与できました。特養施設等での演奏会では、日頃、演奏会に来ることが困難な方々に音楽を届けることができました。

**ポイント**

単年度事業ではなく、複数年にわたる事業を継続していくためには、プロデューサーが必要であり、継続していく意思がなにより大事だと思います。また、資金の調達（自己負担金）・捻出にどのような工夫が必要か、元気づくり支援金のみでなく、他の機関からの支援金等をも考慮するなどの方法も視野に入れていただければと思います。なによりも構成団体間の意思疎通が円滑に行われ、継続的な意思の確認が大事だと思います。

団体名 創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会（佐久市）  
 連絡先 （事務局）長野県佐久創造館 （電話）0267-68-2811

## とうみ子どもがまんなかプロジェクト (楽育ひろば tomi)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

子どもが自ら考え行動できるような出会い (人、自然、動物など) を大切にしながら、さまざまな遊び (体験) を通して、子どもの「こころとからだを育む場」をつくることを目指し、里山を活用した定期的な自然遊び活動や、地域住民参加型のイベント (体験会や活動報告会)、子どもの育ちに関わる指導者及び団体等を対象にした研修会等を実施しています。

特に、毎月実施している里山探検は、2021 年度で 10 周年を迎えました。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R3	とうみ子どもがまんなかプロジェクト	811 千円
R6	子どものサンマを取り戻せ！とうみプレーパークプロジェクト	1,081 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

元気づくり支援金を活用した事業として、「遊び」を軸に子どもを中心とした多世代が集い、つながる場の実現のため、プレーパーク (※) を設置することを目指し、取組を進めています。

事業においては、これまで活動で使用してきた東御市芸術むら公園内のフィールドを更に広範囲・多目的で活用し、当事者の子ども達とそこに关わる大人の協働の元、子ども自身が本当に必要としている遊び場・居場所づくりを進める予定です。

その中で私たちの考え方や取組等を地域へ波及していくとともに、地域の大人の見守り力向上、地域のネットワークづくり (地域力向上) を目指し、さらには観光資源としての魅力発信も進めていく予定です。



【ワークを通じてプレーパーク (遊び場) の将来像を子ども、保護者、スタッフで考えています。】

※ プレーパーク…従来の公園のような場と違い、一見無秩序のように見えて、子供たちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことの出来る遊び場。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした遊び場で、1970 年代に日本にその考え方が入ってきて、その後東京都世田谷区を中心に全国へと広がっています。楽育ひろば tomi ではこのプレーパークの考え方をベースに、里山探検の活動を地域住民の皆さんと 10 数年共に進めてきました。

### 取組の効果

里山探検については、10 周年の記念事業としても絡めたことで、地域における活動の認知度が大幅に向上しました。また、元気づくり支援金事業でスタートした小学生対象の体験活動は、年々参加のニーズが高まっており、活動を進める中で小学生の休日の居場所としての機能も果たせるようになってきています。

### ポイント

地域の要望や困りごとなどを把握して、そういった課題を解決できるように、また子どもたちが主体的に関われるような事業となるよう工夫しています。

事業を継続していくためには、時間や労力が必ずかかってきますが、人材の育成・ネットワークづくりを進めていくことにより事業自体も円滑に進むようになってきました。

団体名 楽育ひろば tomi (東御市)  
 連絡先 事務局 担当：谷貴人  
 TEL 0268-61-6148  
 E-mail gakuhiro@pedam.org  
 HP <https://gakuhiro.com/>

## 諏訪湖を活かしたまちづくり「諏訪湖に学ぶ」 (諏訪湖クラブ)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

会長・沖野外輝夫（信州大学名誉教授）を中心に、「信州ネット SUWA」に参加するなど、諏訪湖周辺の環境・自然エネルギーに関わる問題などに取り組みながら、諏訪湖と周辺の暮らしを考える市民グループ 会員 諏訪地方を中心に 80 名

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
令和 3 年度	冊子；オオワシ「ゲル」の記録 作成・配布 LCV 放映番組の DVD 化・配布	4 3 1 千円
令和 5 年度	冊子；諏訪湖の水生植物、治水に繋がる釜口水門、水の学習 紙芝居作成；オオワシと鳥きち爺さん	6 6 7 千円
令和 6 年度	冊子；諏訪湖に生息する魚介類、諏訪の大地誕生、諏訪湖は鳥の 宝庫、蚕糸業とカイコの生態 作成・配布	5 8 5 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・ 諏訪湖創生ビジョン推進会議の構成メンバーとして、事務局活動やワーキンググループに積極的に参加。主なもの  
(1) 諏訪湖のしゅんせつ (2) 水草対策 (3) 諏訪湖案内人  
(4) 諏訪湖における持続可能な漁業振興 (5) 諏訪湖周自転車活用推進会議
- ・ 湖沼水環境保全に関する自治体連携の取り組み  
宍道湖・中海、琵琶湖、霞ヶ浦などで活動している市民団体他と意見交換を行っている



【岡谷市みなと保育園での紙芝居上演】

### 取組の効果

- ・ 「諏訪湖に学ぶ」と題して作成した冊子を見た方から、諏訪湖に関する意見交換会をする機会が増えてきた  
令和 6 年 8 月 東京都東京社会科授業研究会メンバーと釜口水門にて意見交換 諏訪湖の水生植物、釜口水門の歴史他  
令和 6 年 12 月 茨城県一般社団法人霞ヶ浦市民協会と意見交換会を予定
- ・ 冊子；水の学習「水はどこから来てどこに行くの」を副読本として下水道の仕組みや水道について学ぶ小学校が増えてきた。
- ・ 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」を下諏訪町立図書館、諏訪市図書館での上演には多くの方が来られた。また上演の要望が寄せられたのでできるだけ上演会を行った。

### ポイント

- ・ 会員間の情報共有のために、年 4 回諏訪湖クラブニュース（8 ページ～24 ページ）を発行
- ・ 月 1 回、会員がだれでも参加できる理事会を開催し、諏訪湖に関する話題等をテーマに意見交換
- ・ 令和 6 年 4 月 1 日に開設された諏訪湖環境研究センターと連携し、「諏訪湖に学ぶ」をテーマのコーナー設置を要望し、パネル展示や冊子の展示などをしていきたい
- ・ 同じ課題を抱えている琵琶湖や霞ヶ浦他の市民団体との情報交換を密に行い、課題解決に向けて意見交換を行っている。

団体名 諏訪湖クラブ  
連絡先 八幡義雄  
<https://suwako-club.com/about.html>

**1人ひとりの命を大切に。  
大自然の中で生かされ、繋がりをを感じる子育て環境をつくる。  
(認定特定非営利活動法人 フリーキッズ・ヴィレッジ)**

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

大いなる自然の力に生かされる、かけがえのない1人ひとりの命。自分・子ども・周りの人を大切にする大人たちがつながり、心豊かな子育て環境をつくること、次世代の子ども達に、暮らしの場から大切なことを伝えていくことを目的に活動を行っています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 1	みんなの村子どもカフェ（水曜）夏休み&春休みこどもカフェ、トイレ&テーブル作りWS	437 千円
R 2	みんなの村子どもカフェ（水曜）、火曜、木曜みんなの村プレーパーク	602 千円
R 3	みんなの村子どもカフェ（水曜）、火曜、木曜みんなの村フリースクール、みんなの基地改造WS、ロケットストーブ&ヒートベンチWS	2,473 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

R1年度からの3年間の活動を経て、「みんなの村子どもカフェ」は、「みんなの村プレーパーク」として活動を続けています。また、R4年度1月からは、子どもの居場所「みんなの楽校」の活動を週3日はじめることができたほか、伊那市内の活動団体とネットワークを組み、「みんなの楽校」への送迎も行うようになりました。今年度も、「みんなの村改造WS」、「ツリーハウス作りWS」を行い、さらにたくさんの方々と協力しながら、環境を整えています。その動きの中で、2ヶ月に一度程度、土日みんなの村を開放する流れにもなりました。新たに開催しているホースセラピー講習会では、障がいや特性のある子ども達へのアプローチを共に学び、対応の幅も広がっています。自然の中での暮らしを体験できるおやまのおうち事業では、土砂災害に強い駐車場作りを行い、自然と生きる術を学ぶと共に、たくさんの方が来られる環境を整えました。また、高遠の街中にも子育て支援の場を検討中です。妊産婦から子ども、青年、大人と、すべての年齢層が関わりやすい活動を通して、子どもも大人も幸せに暮らせる仲間と楽しい場づくりを行っています。



【拠点で遊ぶ子どもたち】

### 取組の効果

多くの事業を行っているため、たくさんの方が、フリーキッズの活動を知るきっかけをつくる事ができています。各事業の回数を重ねることで、子育て仲間も増えており、また、WS等の環境整備を通して、自然と共に生きることの尊さをスタッフ、参加者が共に実感することができています。

### ポイント

- スタッフ間で互いに助け合える関係性を構築しています。自身の得意分野を活かせる事業を担当しているため、楽しく無理のない範囲で活動を行うことができます。
- スタッフだけでなく、活動に関わるすべての方たちと、「共に一緒に楽しむ同志」という関係性を構築し、さまざまな出会いを大切にしています。

団体名	認定特定非営利活動法人 フリーキッズ・ヴィレッジ (伊那市 高遠)
連絡先	電話：0265-94-5028 メール：office@freekids.jp ホームページ <a href="https://www.freekids.jp/">https://www.freekids.jp/</a>

## 市田柿づくりの伝承と認知度アップ推進事業 (市田柿づくりをやらまい会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

飯田下伊那特産の干し柿「市田柿」を作る柿畑が、農家の高齢化などで遊休農地になっています。私たちは、使用していない柿畑を借用できることになり、地域の特産物でもある市田柿を後世に残していくため、子供たちに市田柿づくりを伝えていきたいと考えています。子ども達と大人たちが、柿の栽培から市田柿づくりを行うことで南信州の特産物の栽培方法を学び、将来に継続していけるよう認知度を上げることを目的としています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の特産物である市田柿を後世に残し、伝統の継承と消費拡大を図るため、子供たちに市田柿づくりを伝えた。</li> <li>・ こども食堂の運営団体や農業教育を行う団体等と連携し、市田柿についての学習会、畑の整備から干し柿づくりまでの一連の作業の体験会を実施。</li> <li>・ こども食堂で柿を使用したおやつを提供。</li> </ul>	330 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・ 令和4年には、南信州子ども応援プラットフォームに加入している子ども食堂や学童さんを運営している団体に通っている子どもたちに参加していただきました。柿の収穫や市田柿づくり（柿むきから硫黄燻蒸）の体験を実施し、それぞれの家庭で干し、干柿を作っていただきました。
- ・ 令和5年には長野県外に住んでいる農業に興味ある方々10名を集め、柿の収穫体験をしていただき、各自で持ち帰った生柿で干し柿を作っていただきました。
- ・ 令和6年も同様な収穫体験などを行い、さらなる認知度アップにつなげていきたいと考えています。

### 取組の効果

- ・ 柿の収穫から干し柿（市田柿）づくりまでの体験をしていただくことで、南信州の特産物の認知度をアップすると共に農業に興味を持っていただくことができました。
- ・ 体験に参加していただいた方々から来年も参加したいと言ってもらい、県外から南信州に来るきっかけとなり地域の素晴らしさを伝える機会にもなっていると感じています。



【 柿収穫の様子 】

### ポイント

- ・ 地域の産業（市田柿）を伝えることや体験を通じた市田柿づくりの情報共有ができると考えています。
- ・ 親子で一緒に参加する体験型イベントのため、家族で市田柿を知るきっかけとなり認知度アップにつながると考えています。
- ・ 市田柿をきっかけに、県外から来ていただき体験や宿泊などしていただくことを通じて、地域の良さを伝えることができる機会になっていると考えています。
- ・ 新規に市田柿づくりを行いたいと思う方が増えることにも繋がっていくと考えています。

団体名：市田柿づくりをやらまい会  
 連絡先：代表 佐藤智英  
 E-mail：itidagaki.yaramaikai@gmail.com

## あやめ公園池憩いの場創生事業 (あやめ公園池保全管理組合)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

ため池や公園の多面的機能を維持するため、地域一体で保全管理し、散策や自然観察などができるよう、集客環境を整備することを目的に環境整備を実施している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 3	公園の景観整備作業、カエデの植樹、木製ベンチの製作	4 8 4 千円
R 4	公園の景観整備作業	0 千円
R 5	遊歩道の土砂の入れ替え及び木製チップ敷き均し、カエデの苗木の補植、公園入口に案内看板設置	9 3 8 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

栈橋の整備による池周辺の改修工事  
 池の周遊や自然散策を活用した観光面での機能向上  
 カエデの補植  
 カエデ植樹個所の下刈り作業  
 自然鑑賞会の開催  
 案内看板設  
 遊歩道の土砂入れ替え  
 木製チップ散布・敷き均し



【木製チップ敷き均し作業状況】

### 取組の効果

公園周辺の環境整備や植樹作業を地域住民が参画して行うことにより、環境保全や景観形成への意識向上が図られた。

R 5にはため池入口に案内看板が設置されたことで、観光客や地元住民の憩いの場として認識度が上がり、利用者増加につながる見込みである。また、遊歩道への木製チップ散布・敷き均しにより、快適に散策できるようになり、魅力度向上が図れた。

### ポイント

環境整備、植樹作業により、地域住民が関わり地域一体となった活動は、環境保全や景観形成の意識高揚へつながると共に、観光客へ向けた魅力向上に対して一定の効果があったと見受けられる。これらの事業を維持していくことで更に大きな効果が期待できるので、今後の事業継続に期待したい。

あやめ公園池保全管理組合（木祖村）  
 事務局  
 大久保 稔彦  
 Tel : 0264-36-2001  
 E-mail : nourin@kisomura.com

## 信州ギター祭り（信州産ギターのPRの推進） （信州ギター祭り実行委員会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

ギター製造全国シェア 50%近くを占める信州産のギターを広く県内外に認知され、信州産のギターが県内外に多く展示され使用ユーザーを増やしていくこと、地場産業の活性化を目的に活動している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H31	信州ギター祭り 2019 を開催。信州産ハイエンドエレキギター、ベースを 110 本展示して信州ギターのPRを行うほか、楽器の製作工程・ギター木材を持ち込み、素材を見ながらビルダーと参加者がふれあえる機会を作り、より関心を持ってもらった。 2日間で 1,500 人の来場を得た（目標 500 名）	587 千円
R2	信州ギター祭り 2020 を開催。信州産ハイエンドエレキギター、ベースを 150 本展示するほか、職人によるトークショーを実施。ネットでの展開も行った。 2日間で 770 人の来場を得た（コロナ下により入場人数制限）	1,011 千円
R3	信州ギター祭り 2021 を開催。従来の信州ギターのPRのほか、次年度への自立した運営に向けて、SNS キャンペーンや記念ノベルティ作成、地元商店街と連動した企画を実施。 2日間で 700 人の来場を得た（コロナ下により入場人数制限）	1,296 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

- ・信州ギター祭りを継続して、2022、2023、2024 と実施。
- ・総合的学習の時間を通じて中学校でギター制作についての授業の実施  
R6 年は松本市立丸ノ内中学校、信州大学附属松本中学校にて実施  
信州大学附属松本中学校ではコラボギター製作中（R7.3 月完成予定）
- ・加賀友禅をはじめ他地域の伝統工芸とコラボギターを製作
- ・塩尻市のギター工場と木曽漆器コラボギター製作、販売
- ・松本市議会にて和久井悟議員が「信州ギター」についての一般質問を行ってくださりさらなる松本市の協力を期待
- ・松本市の直近の課題「虫食いの赤松」を有効活用しギター製作、販売



【ギター祭り会場の様子】

### 取組の効果

- ・信州ギター生産量の増加（どこの工場も月産生産枠がうまっており受注から納品まで以前は 6 か月程度だったのが平均して 1 年となっている）
- ・県外からの信州ギター目的の来県者増、20 代など若年層にも波及
- ・県内での信州ギター販売シェア向上
- ・地場産業である信州産ギターの認知度向上
- ・県外での信州ギターの取り扱いショップが増え、またアジア圏中心に知名度が向上し生産増に繋がっている
- ・信州ギター祭り 2023、2024 は 40,000（千）規模のイベントとなり国内でも指折りのギターイベントとなりました
- ・来場者は 1,000 名近く（県外割合 80%）になり地域経済への波及効果も大きくなった
- ・当日は 2 日間とも X（旧 Twitter）のトレンド入りし知名度向上に繋がった
- ・Yahoo! ニュースに掲載された

## ポイント

- ・中小零細企業が中心のため、できるだけ出展費用が負担にならないようグッズ販売などを許可し出展料にあてている
- ・会場（松本パルコ様）から協賛金をいただいている
- ・時代にあわせて告知面でお金をかけるのはSNS、Youtuber への謝礼金のみ
- ・SNS アカウントが育ってきてフォロワーが増えたため宣伝国費を大きく使わなくとも情報が拡散されやすくなった

## 今後の課題

- ・直近の課題としてはR7には現在の開催場所「松本パルコ」が閉館するためR7以降の実施会場が不安定（松本市商工課とも協議中だが簡単な問題ではない）
- ・上記、開催場所がホテルの式場のような場所しか手配できない場合の会場費捻出
- ・塗装職人、塗装下請けが足りずどの工場も生産が滞りがちになっていることによる納期遅れ
- ・マンネリ化しないための催し事の仕掛けが毎回悩みます
- ・地元マスメディアにもご協力いただき県内での知名度向上

【グッズ販売で人気「端材箸」】

【加賀友禅コラボギター】

【丸之内中学校課外授業】



団体名：信州ギター祭り実行委員会（松本市）

連絡先：太田 幹雄

TEL：0263-38-5280

HP：<https://shinsyuguitar.wixsite.com/website>

## 小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業 (伊折農業生産組合)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

伊折農業生産組合では、発足以来、地区住民の協働により特産品の生産・販売を行い、地区の農産物のブランド化に取り組むとともに、地区の景観の維持や水田の維持に努めてきたが、組合員の高齢化等により働き手が減少しており、従来の生産の維持が難しくなっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により販売先が縮小しており、新たな販売方法への転換が必要となっている。

高齢化・過疎化に対応した持続可能な生産システムの構築及びウィズコロナ等に対応できる販売方法の検証を行い、新たな体制づくりを目指していく。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R3年度	新たな農産物の選定のためのマーケット調査及び試験栽培を行った	735千円
R4年度	選定した農産物(ハーブ、エディブルフラワー、ブルーベリー)の栽培方法及び栽培環境の検証と商品化に向けた試作品開発を行った	763千円
R5年度	ハーブを活用したワークショップの開催や加工品の試験販売を行った	722千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

#### ○活動内容

- ・オーガニックハーブとエディブルフラワーの生産及び加工販売 (ドライやハーブティー) キッチンカーコラボ販売  
ハーブワークショップの開催

#### ○今後の事業展開

- ・農業体験メニューのバリエーションを増やし、子ども達など若い世代にも里山の暮らしや農産物を身近に感じてもらえるような取り組みを続けていく。



【ハーブソーダキッチンカー販売】

### 取組の効果

- ・取組の初期投資に元気づくり支援金を活用したことで、新たな農産物のハーブ栽培への取り組みを実施することができ、乾燥機や保管庫などの導入により収穫したハーブのドライや保管などが可能になった為、加工品製作などがより効率的に行える環境を整えることができた。
- ・ハーブなどの栽培を継続して行うことで、栽培方法の改善にも取り組むことができ作業の効率化を進めることができた。加工品の試作や製作などにも若い世代が関わることで新たな関わりが生まれ、ハーブの加工品などの販路も広がっている。

### ポイント

- ・小谷村への移住者の方や地域おこし協力隊員の方など、農業に興味のある方に声をかけ、作業の手伝いに来ていただいている。
- ・生育したハーブの販売や、ハーブの加工品販売、ハーブを活用したワークショップを開催することで収益を得ている。
- ・伊折農業生産組合の様々な取り組みを通じて小谷村から農作物の収穫体験事業を委託された。

団体名 伊折農業生産組合 (小谷村)  
 連絡先 0261-82-2230  
 yukiwarisou.iori@gmail.com

## 生鮮冷蔵冷凍コンテナを活用したフードロス削減と助け合いの心をUP (信州こども食堂印SDGsプロジェクト)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

SDGsが掲げる目標の地域内達成を基本に、本事業はSDGsの目標①②③⑫⑯の実現のため、企業や地域住民による食品寄贈で「助け合う気持ちの育み」と、食料不足や購入困難者を中心に食べられるのに捨ててしまう可能性のある食品を配布することで「フードロス削減」を実現する。大型冷蔵冷凍コンテナを設置することで、従来から実施していたフードドライブでは積極的受入が出来なかった生鮮・冷凍食品の寄贈受け入れを可能にし、地域のこども食堂運営者へ、生鮮冷凍食品も無償提供することを可能にし、こども食堂の増加や、子育て支援の増強を中心に、活気ある地域住民の助け合い促進を目標とする。

また、生きる源となる「食」の確保不安を、年代に関係なく地域の生活困窮者を中心に軽減することにより、心身ともに健康の維持を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R3	【生鮮食品のフードドライブ・パントリー事業】 生鮮冷凍食品の寄贈受け入れのための大型コンテナの運用実用実験とフードドライブや食品無償提供を実施した。	3,996千円
R4	【生鮮&冷凍フードロス削減とフードパントリー活性化】 前年の活動に加え、寄贈などの活動をさらに地域住民に促進しフードロスを軽減しながら、食品無償提供される方の気持ちも考えながら活性化させるために、フードロス削減に協力頂ける方へ情報配信する会員の募集活動も実施した。	4,410千円
R5	【寄贈冷蔵冷凍食品を活用した子育て困窮者支援と心身の居場所づくり】 生鮮冷凍寄贈食品の受け入れをさらに活性化し、食品配布もする中で、子育てママや学生、一般社会人のボランティア参加も増加させ、新しい活動場所や他団体とのコラボ企画も実施した。	4,672千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

大型冷蔵冷凍コンテナ 20ft を 1 台保有し、生活困窮者だけでなく、NPO法人ホットライン信州との連携で、地域の約 30 カ所のこども食堂へ生鮮冷凍食品を無償提供している。

また、当団体独自で、フードドライブを年間 24 回、フードパントリー（無料食品提供）を年間 24 回、こども食堂を年間 12 回開催している。

現在、ボランティアスタッフは安定的に 15 名ほど参加いただき上記のイベントをこなしており、学生ボランティアの育成や子育てママの生活相談、高齢者支援なども行っている。

今後は、現在の活動を続けながらも、食支援だけでなく、生活基盤を作る【職支援】やそのための【学習・技術支援】、また心身を健康に保つために、学生や生活困窮者、生活保護受給者などへ【ボランティア参加活動の促進】も行い、「貢献市民」を多数育成し、地域を元気にする活動を促進していく予定。



【2024.10.27 フードドライブにて】

※代表はボランティアコーディネーター資格を保有し、特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会の議決権ある正会員としても活動する。

### 取組の効果

- 食品寄贈量  
R3年度 26.33 トン    R4年度 24.055 トン    R5年度 91.856 トン
- 当団体のイベントでの無料配布量  
R3年度 1.575 トン    R4年度 4.250 トン    R5年度 12.695 トン
- 当団体のイベントへの参加延べ人数  
R3年度 315 人        R4年度 850 人        R5年度 2,411 人

- コンテナからの主な配布先のこども食堂（NPO法人ホットライン信州連携）
  - 【長野市】信州こども食堂、にっこりひろば、ながのこどもわくわくカフェ、ハーティデコ、信州親子塾、更和田寺子屋カフェ、オレンぢ、古里こどもカフェ、学び舎めぶき、みんなみ、お日さま、こいつちこども食堂、こどもと誰でも食堂、柳町カフェ、西之門こどもレストラン
  - 【飯綱町】てんぐカフェ
  - 【須坂市】須坂プラザ食堂、須坂みんなの食堂
  - 【小布施町】おぶせっこ食堂
  - 【中野市】ハッピーカムカムこども食堂、なっちょカフェ、岩船こども食堂、長丘こども食堂
  - 【千曲市】かみとくま食堂、ゆいっこ子どもと誰でも食堂、オリーブいばしょ Cafe、伝州こども食堂 in 千曲市
  - 【佐久穂町】そら音
- 当団体のイベントへのボランティア参加延べ人数 30名  
就労者 15名 未就労成人 4名 大学生 1名 高校生 4名 中学生 2名 小学生 4名
- LINE会員 330名

## ポイント

- ・当初の目的である生鮮冷凍食品のフードロス削減や寄贈協力者および利用者の増加、そのことの効果も含めたこども食堂の増加による地域の活性化が促進されたと感じている。
  - 【＝こども食堂の増加数と食品提供数】
- ・生活困窮者の実態をより多く感じる経験値が上がったことで、さらなる地域での助け合いの活動に必要性を感じた。
  - 【＝フードパントリーでのヒアリングや電話やメールによる相談実施での実態】
- ・各種提供サービスを受ける方々だけでなく、ボランティア活動で元気になっていく人も出ており、地域での居場所や存在価値を人と一緒に作る必要性を感じる。
  - 【＝学生ボランティアを中心に意欲促進効果が出来た】
- ・貧困の根幹的部分も考慮すると今後の未来への不安視すべきことも多々存在するので、現段階から子どもたちの成長過程に「助け合い」の精神を伝授する必要性を感じる。
  - 【＝DVも含めた親子での状況連鎖・負の連鎖の断絶】

団体名	信州こども食堂印SDGsプロジェクト
連絡先	代表 小林尚貴
TEL	050-5369-1117
メール	shinsyu.sdgs.pro@gmail.com
WEB	<a href="https://298web.me/s-sdgs-pro/">https://298web.me/s-sdgs-pro/</a>

## 信州中野きのこ生産の歴史と未来 (一般社団法人日本きのこマイスター協会)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

長野県は、戦後きのこ産業の拠点として発展してきた。とりわけ、北信州は農閑期の副業として農家で普及しはじめ、栽培施設の大型化が進んだ現在では、生産量全国トップクラスを誇る産地となった。協会では、きのこ産業の振興と消費者の健康的な食生活に寄与することを目指し、「きのこマイスター認定制度」の創設やきのこの消費拡大に関する事業に取り組んでいる。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R1	中野市のきのこ産業の歴史を中心とした企画展及び小学生を対象としたワークショップ	1,538 千円
R2	“きのこの可能性”をキーワードとした企画展、小学生を対象としたワークショップ及びきのこ観察会	1,628 千円
R3	“きのこ産業の未来”をテーマとした企画展、小学生を対象としたワークショップ、きのこ観察会及びきのこ標本づくり	1,849 千円

### 最近の活動内容と今後の事業展開

小学生対象のワークショップ「めざせ！キッズきのこマイスター」では、きのこの収穫体験や栽培体験のキットづくりを行い、参加者には「キッズきのこマイスター」の称号を授与した。

また、中野市立博物館等で健康効果等の企画展を開催している。今後も、各種イベントや団体と連携し、きのこの魅力等を発信していきたい。



【きのこ栽培チャレンジ(菌かき体験)】

### 取組の効果

小学生対象のワークショップでは、実習を通じて親子できのこに親しみ、理解を深めている。また、ワークショップには定員を超える応募のほか、中野市外からの問い合わせが増加しており、関心の高まりがうかがえる。

企画展では、きのこファンや生産サポーターの拡大に寄与した。

「キッズきのこマイスター」となった子どもたちが、きのこの美味しい食べ方等をわかりやすく発表する場面を設け、発信だけでなく自らの理解を深める機会となっている。

【子どもたちによるPR  
(ナガノきのこ大祭)】

### ポイント

小学生のワークショップでは、自宅栽培するための作業(菌かき)を体験する。

自ら育てたきのこを収穫し食べることで、きのこに対する興味がより一層深まっている。

一般社団法人日本きのこマイスター協会 (中野市)  
事務局 0269-38-0013  
ホームページ <https://kinokomeister.com>  
メールアドレス [webpost@kinokomeister.com](mailto:webpost@kinokomeister.com)